

## 「特許情報検索による技術移転活動」

稲岡 美恵子（京都工芸繊維大学 創造連携センター）

## 1. はじめに

大学で生み出された研究が、科学的発見や技術的な発明にとどまることなく、新たな付加価値を生む技術革新として結実し、社会において活用されることは重要なことである。そのため大学では、研究の成果を普及しその活用を促進するために技術移転活動が図られている。

この技術移転活動は、大学等技術移転促進法による技術移転機関（TLO）や大学の産学連携部門がその役割を担っているが、重点的な研究を取り扱うのが中心で、多くの研究は研究者の個人的人脈と当該案件を担当した産学連携コーディネーターや知的財産マネージャーの経験にもとづく個人的・経験的手法に頼っているのが現状である。

## 2. 目的と方法・手段

技術移転調査ツールとしてFタームを用いて特許情報検索を行い、この技術の応用が期待される分野の企業を探索して新たな連携先を開拓することを目的とした。

Fタームとは、File forming Term の略で、特定の技術分野を細かく分類してタームが作成されており、特許公報中にそのタームに該当する記載がある場合に、その特許公報にそのタームに相当する分類が付与されている。

Fタームは、IPCのように発明のポイントを表すだけでなく、公報中の記載から付与されており、分類データが特許庁内で更新・メンテナンスされている。

Fタームを用いた特許情報検索は、

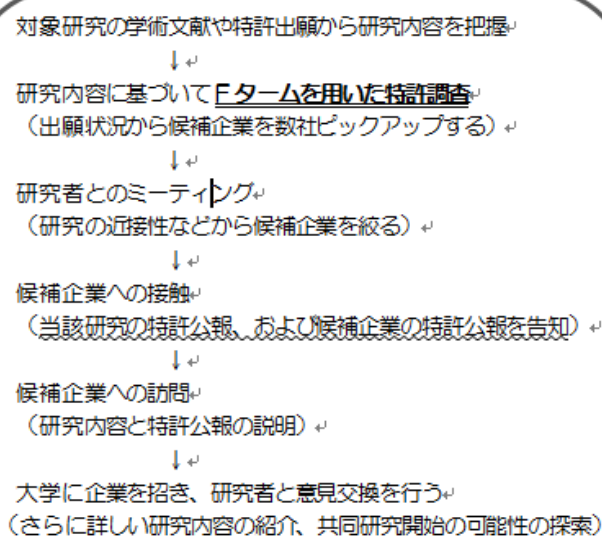
- ① 明細書中でどんな用語・表現を使っているか、明細書の中身が分類の意味と一致しているか、分類付与されていれば検索でその特許を見つけることができる。
- ② 自分では思いつかなかったキーワードがFタームを用いて分類検索で探すことにより、検索の幅が広がる。
- ③ Fターム同士の論理積あるいはFタームとキーワードの論理積をとることによって、ノイズの少ない検索を行うことができる。

というメリットを有している。

このことから、Fターム検索によって検索された特許文献の出願人（企業）は、特許発明の実施予定、または既に実施している可能性が高く、

対象研究に興味を持ってもらえる可能性が非常に高いという特徴を有している。

右に、Fタームを用いた特許情報検索による技術移転活動の手順を示す。



## 3. 具体的活動

当該手法による具体的活動として、平成24年度に採択されたJST知財活用促進ハイウェイ「大学特許価値向上支援」による技術移転調査活動を実施した。

Fタームを用いた特許情報検索による技術移転調査に基づいた技術移転活動は、企業への面談のアポイントを素早く得ることができ、当該特許明細書や特許情報についても話が及び、研究と特許の両面から打ち合わせを行うことができた。

Fタームを用いた特許情報検索による技術移転調査を基にした技術移転活動は、この研究の技術の応用が期待される分野の新たな連携企業を開拓することができる手法であるといえる。